



利益相反の話

利益相反とは、一般的に当事者の一方の利益が、他方の不利益になる行為のことをいいます。利益相反は「土業」においては必然的な議題と考えられます。

例えば、税務調査の場合、税務署から売上の計上漏れ1000万円を指摘。納税者は計上漏れを認めるものの、企業実態は、赤字、赤字と続いており、金融機関へ追加融資しても、実質的な支払能力は、400万円が限度、今後は、倒産の可能性があると主張。本案件は、計上漏れですので、「売上は認めるから売上原価、販売費及び一般管理費も認めてくれ」と提示し、課税所得を400~700万円とも主張できます。

例え話ですので…ここで、自分が「土業」になったら、①1000万円、②400万円、③間をとって700万等といくらかで合意形成を図っていくことが最善なのか。一方に偏るとどういう事態がこれから起こるか考えてみてください（ここがポイントです）。ここでは、交渉する力、両者とも「説得・納得」させる力等の様々な要素が加わります。

誤解がないように、税務調査対応の基本はありません。普段からの正しい会計処理、資料の整理整頓が重要となります。しかし、調査というものは、税金を取りたい税務署と税金を払いたくない納税者といった利益相反の関係にあるため、主張の差異は避けられません。

利益相反は、表面化はしませんが、ビジネスの世界では、必然的にあるものと考えます。契約自由の原則が前提であり、自由であります。一定の取引については禁止事項の対象となります。また、多くの「土業」では利益相反行為は規定等で禁止されています。



今回、利益相反をテーマに考えてもらいたいのは、「利益とはなにか」。自分にとっての、「長期利益」「短期利益」とわけて本質を見極めて下さい。

内定を勝ち取った学生も現在必死で活動している学生の皆さんも、「自分にとって本当の利益とはなにか」ポジションや全体図で考えて、また、その利益を得られなければ何が起こるのか、一度ビジネス界へ飛び込む前に考えてみてください。応援しております。

キャリアサポート委員会 大城 隼人

職種を選択、そのパターン・・・「就職ゴリラ塾」かんべむさし著 より

大学3年生・短大1年生の皆さんへ



さて、いよいよ自分の進路に向き合う時期になってきました。毎年、学生諸君から、進路の選択に、何を指したら良いのかわからないという話を、よく聞きます。昨年も紹介しましたが、自分の適職や希望職種をどのようにしぼっていくのか、ヒントを差し上げます。（考え方です。）

◎ 趣味がそのまま職業になる

自分の趣味や道楽が、そのまま仕事になるという人 — うらやましいというか幸せな選択ですね。

◎ 志望職種が決まっている。進路がおのずと決まっています、それを納得している

資格を活かした専門職など — 自分の専門分野で自己実現を目指すという人。いいですね。

◎ 業種で選ぶ。職種で選ぶ

最も多そうなパターン。常識的な方法なんだろうと思います。

◎ 名前や人気、流行で選ぶ

業種業界に関係なく、知名度や人気度で選ぶ。

— ちょっと危ないなあ、いったいどんな仕事をしようとするのか？大企業必ずしも安心ではない。

◎ 要するに、何がしたいんだ。どうなったら、いちばん幸福なんだ？

本当に、自分はどのような毎日を送れば、幸福なのかを考えてみる。

◎ どのような仕事でも天職と考える

向き不向きというより、気持ちの持ち方だね。

